

防災実践と連携

①国内外との連携

基本方針

東日本大震災を経験し復興予算で設立された東北大・災害研にしかできない研究成果をベースとした実践と連携活動を追求する。

1. 急性期：救命活動や物資の支援・ライフラインの復旧期

1-0：国内でHPを通じた情報の提供や報告会を通しての情報の共有

1-1：被災地の大学の後方支援活動（フィールド調査も含めて）

1-2：諸学会と連携した活動（フィールド調査も含めて）

1-3：国際研究所として国際発信する

2. 復興期：避難所から仮設住宅へ・インフラの整備や住宅再建期

2-1：ビルド・バック・ベターの追求と提唱（東日本大震災の経験から）

2-2：東北被災地にも似た、過疎地域やアクセスが容易でない地域の復興をどうするか

3. 次の大災害にむけての総点検（能登半島地震からのレッスン）：

南海トラフ地震や他地域での直下型地震や大災害発生時を考えて、十分でないところの総点検を

1-0: 国内でHPを通じた情報の提供や報告会を通しての情報の共有

大学、研究機関、学術団体、JST、防災関連の中央政府（外務省、内閣府防災担当、国土交通省（気象庁含む））、自治体、JICA、メディア、企業、NGO等

HP: <https://irides.tohoku.ac.jp>

| すべて | トピックス | プレスリリース | 災害緊急調査 | 教職員公募 |
|--------------------|--|---------|--------|-------|
| 2024.01.07 ■災害緊急調査 | 令和6年能登半島地震速報会を開催します (1月9日午後) | | | |
| 2024.01.07 ■災害緊急調査 | 令和6年能登半島地震ウェブページを更新しました | | | |
| 2024.01.03 ■災害緊急調査 | 令和6年能登半島地震へのお見舞いと支援について (東北大学総長 大野英男) | | | |
| 2024.01.01 ■災害緊急調査 | 令和6年能登半島地震で避難されている方々の低体温症予防について | | | |
| 2024.01.04 ■トピックス | 明治学園 (北九州市) の生徒7名が災害科学国際研究所に来訪しました (中鉢、鎌田) | | | |
| 2023.12.26 ■トピックス | インドネシアにおけるより良い復興の時空間推移に関する研究プロジェクトを開始しました (村尾、齋藤玲) | | | |
| 2023.12.26 ■トピックス | 第11回 東北大学附属研究所若手アンサンブルワークショップを開催しました (原裕太、齋藤玲、杉浦) | | | |
| 2023.12.25 ■トピックス | 第13回巨大津波災害に関する合同研究会を開催しました (越村、今村、佐藤翔輔、鎌田、菅原) | | | |

→ 記事一覧 → 報道・メディア掲載

令和6年能登半島地震 -2024 Noto Peninsula Earthquake-

最終更新 2024/01/07 18:00 (公開開始 2024/01/01 19:45)

令和6年能登半島地震で被災されました皆さまへのお見舞いとご支援について

この1月1日に発生しました令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。東北大学災害科学研究所は、東日本大震災の教訓等をもとに、科学研究と防災実践を推進しながら、皆さまがよりよい復興に向かわれることを全力で支援して参ります。皆さまが一刻も早く日常に戻られますよう、祈念いたしております。

東北大学災害科学国際研究所所長
栗山進一

東北大学総長 大野英男からのメッセージ

2024年1月1日16時頃に発生した令和6年能登半島地震(最大震度7 (M7.6))に関する解析・調査を進め、随時、情報を掲載してまいります。

東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS) による解析・調査・報告

【地震・断層関係】

- Intense seismic swarm punctuated by a magnitude 7.5 Japan shock (Tambor, Toda & Stein) (遠田 晋次教授)

【地震動関係】

- 令和6年能登半島地震の地震動について (大野 晋 准教授)

【津波関係】

- Preliminary Tsunami Simulation After the Mw7.5 Earthquake of Noto Peninsula, Ishikawa Prefecture (令和6年能登半島地震による津波の即時解析と人流データ解析) (Assoc. Prof. Bruno Adriano, Assoc. Prof. Erick Mas, and Prof. Shunichi Koshimura) (アドリアノ ブルーノ 准教授、マセリック 准教授、越村 俊一 教授)
- 石川県の避難所周辺の人流解析 (永田 彰平 助教、マセリック 准教授、越村 俊一 教授)
- 津波の事前解析結果(2022年8月に実施した事前解析) (遠田 晋次 教授、菅原 大助 准教授、サッパシー アナワット 准教授、今村 文彦 教授)
- Simulation of the 2024 Noto Earthquake and tsunami (movie) (準備中) (Pakosung Kwanchai 研究員、サッパシー アナワット 准教授、今村 文彦 教授)

【医療関係】

- 寒さから身を守るには～低体温症の予防～ (江川 新一 教授)
- 災害後のこころの健康のための8ヶ条 (日本語) (國井 泰人 准教授)
- 8 Tips for Mental Health Promotion after Disaster (English) (Assoc. Prof. Yasuto KUNII)
- 支援する方々が行う感染対策のポイント (児玉 栄一 教授)

【教育関係】

- 令和6年能登半島地震・学校教育支援プロジェクト (齋藤 玲 助教、佐藤 健 教授、福島 洋 准教授、桜井 愛子 教授、小田 隆史 准教授 (東京大学))

【歴史・文化財関係】

- 文化遺産防災マップから推定する文化遺産の被害状況 (蝦名 裕一 准教授)

1-1：被災地の大学の後方支援活動（フィールド調査も含めて）

1-2：諸学会と連携した活動（フィールド調査も含めて）

（その1）

災害精神医学分野・富田博秋・教授が金沢大学精神科・菊知充・教授との連携で、1月4日（木）19時～能登地域を含む石川・富山・福井・新潟の精神科医・心理師さんを対象に北陸精神神経学会特別企画として「災害時に精神医療保健従事者がすべきこと、できること」というタイトルでオンライン講演会を緊急開催し、約150名の参加者があり、現地の状況の共有等も含めた情報、意見交換を行った。

日本精神神経学会の災害支援委員会（富田博秋・教授が委員長、同分野・國井泰人・准教授が委員）にて、被災地域の精神医療保健従事者や外部から支援に入る人への災害メンタルヘルスや災害救援に関する情報提供のための特設HPの立ち上げ、講演、研修、過去の災害の経験の共有の機会を提供するためのコーディネートに取り組む。

富山県立大学：呉修一・准教授（防災水工学研究室・元災害研教員）

災害研連携教員：森口周二・准教授他

(その2)

土木学会海岸工学委員会 (R6年能登半島地震津波調査グループ)

<https://coastal.jp/info/library/noto20240101/>

(越村俊一教授, アナワット・サッパシー准教授, 今村文彦教授)

土木学会・日本建築学会タスクフォース 土木・建築タスクフォース 災害連携作業部会

<https://committees.jsce.or.jp/dkTF/>

(今村文彦・教授、森口周二・准教授)

地震学会 (越村俊一・教授他)

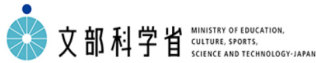
東北大学病院DMATと連携 連携教員：佐々木宏之・准教授、稲葉洋平・講師

熊本大学, 信州大学, 岐阜大学, 防災科研のアーカイブの専門家と共同で、令和6年能登半島地震の記録を後世に残すべく、来年度中の完成を目処にデジタルアーカイブの構築を開始し、最終的に被災地の研究機関・自治体等に移管を予定

災害研担当教員：柴山明寛・准教授

(その3)

金沢大学：平松良浩・教授（地震学研究室）、青木賢人・准教授（地域創造学類・自然地理）
災害研連携教員：原裕太・助教、佐々木大輔・准教授



検索
キーワード
Google Custom Search
検索

> サイトマップ > English 文字サイズの変更 小 中 大

トップ > 会見・報道・お知らせ > 報道発表 > 令和5年度 報道発表 > 「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」に対して、科学研究費助成事業(特別研究促進費)による助成を行います

●「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」に対して、科学研究費助成事業(特別研究促進費)による助成を行います

令和5年6月16日

文部科学省では、標記研究課題に対して科学研究費助成事業(特別研究促進費)による助成を行うことといたしましたので、お知らせいたします。
本研究では、流体の関与が示唆されている能登半島北東部の陸海域で継続する地震活動の原因解明や、過疎・高齢化が進む同地域での地震災害による社会的影響の解明等を目的として、陸海域での地震観測、測地観測、電磁気観測、温泉成分の分析、活構造調査、及び被害状況や地域への影響の調査などの総合調査を実施することとしています。

1. 研究課題名

「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」

2. 研究代表者

平松 良浩（金沢大学 教授）

3. 研究組織

金沢大学、東北大学、東北大学災害科学国際研究所、筑波大学、東京大学、東京大学地震研究所、富山大学、金沢工業大学、北陸学院大学、福井大学、信州大学、滋賀県立大学、京都大学、京都大学防災研究所、神戸大学、兵庫県立大学、岡山大学、海洋研究開発機構、産業技術総合研究所(全19機関、計41名)

4. 研究経費

29,640千円(科学研究費助成事業(特別研究促進費))

1-3：国際研究所として国際発信する

英語での周知：大学・研究機関・国際機関等に周知

励ましの言葉

カリフォルニア大学デービス校 ジョン・ランドル教授（地震学）

コロラド大学ボルダー校 自然災害センター所長 ロリ・ピーク教授（社会学）

スイスのGlobal Risk Forum ウォルター・アマン代表（防災ダボス会議主催者）

国連開発計画（ジュネーブ・バンコク）

国連防災機関（ボン）

ユネスコ政府間海洋学委員会

2024年3月9日に仙台で行われる仙台防災未来フォーラムで特別セッションを検討

2025年3月に仙台で行われる第4回世界防災フォーラムで特別セッションを検討

急性期以降の活動の展望

2. 復興期：避難所から仮設住宅へ・インフラの整備や住宅再建期

2-1：ビルド・バック・ベターの追求と提唱（東日本大震災の経験から）

2-2：東北被災地にも似た、過疎地域やアクセスが容易でない地域の復興をどうするか

3. 次の大災害にむけての総点検（能登半島地震からのレッスン）：

南海トラフ地震や他地域での直下型地震や大災害発生時を考えて、十分でないところの総点検を